

令和 3 年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立川辺小学校

令和 3 年 3 月

大阪市立川辺小学校 令和 3 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国学力・学習状況調査において、基礎・基本及び活用に関する問題の正答率に課題があると見受けられ、このことから言語力の育成・計算力の定着を図ることが大切だと考える。
- 児童アンケートの結果、自尊心を高める必要があると考える。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、大阪市の平均記録に達していない項目があり、体の動かし方を児童に伝えていくことが大切だと考える。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 令和 3 年度の全国学力・学習状況調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 90%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和 3 年度の全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の正答率 8 割以上の児童の割合を、平成 28 年度より 5 ポイント向上させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 年度末の児童アンケートにおける「自分には良いところや得意なことがある」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を前年度より増加させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
- 小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の向上に向けて、特に課題であるソフトボール投げの平均の記録を 1 ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- 年度末の児童アンケートにおける「勉強がわかる」・「運動が好き」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を前年度より増加させる。

3 今年度の自己評価結果の総括

本年度の学校運営全体を通して、本校の教育目標である「自ら考え、正しく判断して実行する、心身ともにたくましい子どもを育てる」「《か》考えて行動する、《わ》笑いがいっぱい、《な》何があってもあきらめない、《べ》勉強をがんばる子」に向けて取組を進めた。取組に当たっては、教職員間の連携が密に取れたことで学校自体の活性化が図られ、子どもたちも生き生きと活動できた。

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】について

中期目標については、下記のとおり、概ね達成できた。

【施策1:安全で安心できる学校、教育環境の実現】では、取組内容①として、「あいさつや返事ができることと、きまり・ルールを守ること」に取り組んだ。高学年になるにつれて達成度が低下するため、それぞれの大切さと効果について伝え、さらに児童の意識を高めていく指導や取組を継続する。また、月に1回のスクリーニング会議での児童の実態把握と背景を含めての共通理解により、配慮を要する児童や問題行動に対して早期発見および早期対応がとられ、児童の安全安心環境が整備されてきた。昨年度に引き続き、Q・U 調査を導入して教職員の児童理解を研究し、それを生かした児童支援を区役所や関係諸機関と連携推進し充実させてきた。防犯、防災、交通安全についての取組内容②として、引き続き、安心安全部会を中心に月1回の部会と安全点検を実施し、教職員の危機管理意識をさらに高めていく。次年度は、今年度コロナ禍で実施できなかった児童の保護者への引き渡し訓練を実施する予定である。

【施策2:道徳心・社会性の育成】では、児童の自己有用感については、道徳教育および各種取組の成果により目標レベルに達している。引き続き、教職員の研修を積み重ね達成感の味わえる教育活動を充実させるとともに、児童の「わかった、できた、楽しい」を増やし、良いところを褒めることで児童の自尊感情・自己有用感を高めていくようにする。また、インクルーシブ教育を推進し、ユニバーサルデザインの研修を通して、障がいのある子もない子も見通しをもって学習や活動に取り組めるようになってきたので、今後も継続してすすめていく。

【施策3:地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】では、図書室の本の充実と整備が進み、興味を持って読書に取り組む児童の姿が見られた。今後も「ひらちゃん読書ノート」を有効活用して読書習慣をつけるとともに、読書に対して興味関心が高まる取組を充実させる。また、地域の方と触れ合う活動や地域の自然を活用した取組は継続し、充実を図ることができるよう、区役所や各関係諸機関と連携しながら進めていく。

PTAや地域の方と触れ合う活動は、年間 4 回実施できた。しかし、教職員がPTAや地域の活動に年 1 回以上参加することは、新型コロナウイルス感染症感染防止のため出来なかった。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】について

【施策5:子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】では、学力経年調査の結果では、どの教科も記述式の回答に課題があった。また2極化傾向にある。今後、学力 UP 事業(専科指導)により、学力下位層の児童の底上げとともに、ICT 機器の有効活用や「主体的・対話的で深い学び」に基づく授業改善の工夫をすすめていく。来年度はさらに話し合いの質の向上をめざし、思考力を高める学習を増やし、テスト結果の向上に繋げる。

【施策8:【施策を実現するための仕組みの推進】では、国語科における授業研究やメンター研修など、充実した研修内容が展開され、若手教員中心に教職員の学び合いができた。

【施策6:国際社会において生き抜く力の育成】では、特に低学年の児童が英語学習を楽しみにしていることが明らかになった。短時間学習においては、どの学年も習慣化し、英語に慣れてきている。大型英語絵本は低学年児童に有効だった。また、ICTの活用により、児童の情報活用能力が高まりつつある。積極的にデジタル教科書や電子学習教材を活用し、タブレットを用いて個に応じた学習を充実させ、児童の家庭学習力も伸ばしていく。

【施策7:健康や体力を保持増進する力の育成】では、体育集会での取り組み(短なわ集会、かけ足集会)を取り入れることで、児童が意欲的・積極的に活動することができた。児童アンケートにおける「毎朝、朝ごはんを食べている」の項目について、目標に達している児童数は目標値を上回った。「早寝、早起きをしている」の項目について、肯定的回答の児童の割合が、低学年67%、高学年56%で課題が残っている。次年度も健康生活週間の取組を実施して、基本的な生活習慣が身につくように指導する。

大阪市立川辺小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を 85%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○年度末の児童アンケートにおける「自分には良いところや得意なことがある」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を前年度より増加させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1:安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>○学校の教育活動全体を通して、道徳教育を推進する。学校や社会のきまりを守ることや、場に応じたあいさつや返事がきちんとできるように、毎月生活目標を設定して児童に意識させる。</p> <p>○生活指導部会や職員朝会、職員会議を通して、いじめや問題行動の早期発見・早期対応に努める。</p> <p>○年に2回 Q-U 調査を実施し、教職員の児童理解を深め、結果を基に校内支援体制づくりを推進する。</p> <p>指標</p> <p>○児童アンケートにおける「元気よくあいさつしている」の項目について、当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を 80%以上にする。</p> <p>○児童アンケートにおける「きまりやルールを守る」の項目について、当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を 90%以上にする。</p> <p>○月に1回以上、いじめや問題行動・子どもの気になることの情報を共有する場を設定し、全教職員で早期対応に取り組む。また、Q-U 調査の結果を有効に活用し、年に2回以上、全教職員で共有する。</p>	B
<p>取組内容②【施策1:安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>○火事や地震・津波を想定した避難訓練を年間2回、不審者対応の防犯訓練を年間1回、交通安全指導を年間1回行い、児童が災害等から身を守れるようにする。</p> <p>○教職員の危機管理意識を高める。</p> <p>指標</p> <p>○児童アンケートにおける「火事や地震がおこった時、避難することができる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を 90%以上にする。</p> <p>○安心安全部会を月に1回以上行うとともに、随時、学校内外の安全面の点検を行う。</p>	B

<p>取組内容③【施策2:道徳心・社会性の育成】</p> <p>○学校の教育活動全体を通して、道徳教育を推進する。</p> <p>○児童がお互いの違いを認め合い、友達を大切にする心情を育む。教職員は、キャリアパスポート等の活用を通して、達成できたことや児童のよいところを見つけて認め、自尊感情や自己有用感を高めるようにする。</p> <p>○「共に学び、共に育ち、共に生きる」インクルーシブ教育を一層推進し、ユニバーサルデザインを取り入れて、障がいのある子もない子も、見通しをもって学習や活動に取り組めるようにする。</p>	B
<p>指標</p> <p>○児童アンケートにおける「自分にはよいところや得意なことがある」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を80%以上にする。</p> <p>○特別支援教育を推進し、児童の様子や活動等の交流を学期に1回以上行い全教職員で児童を育てる。</p> <p>○福祉体験(盲導犬・車いす体験)や出前授業等を2回以上行う。</p> <p>○ポジティブ教育に関する研修会を1回以上もつ。</p>	B
<p>取組内容④【施策3:地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>○問題文の中で問われている内容に着目し、しっかり考える力をつけるために、図書館開放や朝の読書タイムを活用し、言語活動の推進を図る。平野区「ひらちゃん読書ノート」を活用し、高学年は、年間2000ページ以上、中学年は50冊以上、低学年は70冊以上読む児童の割合を増やす。</p> <p>指標</p> <p>○「本を読むのは楽しい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を85%以上にする。</p> <p>○学年で決められた冊数やページ数を読む児童の割合を70%以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑤【施策3:地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>○家庭・地域・外部団体との連携を図り、多様な体験学習を実施する。</p> <p>○地域のボランティア活動に年間1回以上取り組む。</p> <p>○大和川の自然を生かした活動を行う。</p> <p>指標</p> <p>○児童が、PTAや地域の方と触れ合う活動や、各種団体と関わる活動を年間4回以上実施する。</p> <p>○PTAや地域の活動に、教職員が年間1回以上参加して、保護者や地域の方と触れ合う。</p> <p>○児童アンケートにおける「地域の活動に参加するのが好き」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。</p> <p>○ボランティア清掃に取り組む。(かけ足大会や水辺の教室など、大和川での活動を実施する。)</p>	C
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取り組み内容①</p> <p>○児童アンケートにおける「元気よくあいさつしている」の項目について、当てはまる(どちらかといえば当てはまる)と答える児童の割合が全体で86%(低学年91%、高学年81%)となっており達成している。教職員が正門前に立って挨拶したり、児童会の児童が交代で挨拶をしたりしているのも高い達成状況につなが</p>	

ていると考えられる。

- 児童アンケートにおける「きまりやルールを守る」の項目について、当てはまる(どちらかといえば当てはまる)と答える児童の割合が全体で92%(低学年95%、高学年89%)となっており達成している。
- いじめや問題や問題行動について月に1回以上情報を共有する場を設定しており、全教職員で問題に対応できるようにしている。また、1学期にはQ-U調査を実施し、職員全体で結果の分析を行いアセスメントができた。また、課題の解決に向けて話し合う場を設けるなど計画通り取り組めた。

取り組み内容②

- 緊急事態宣言に伴い、避難訓練の実施内容に変化はあったが計画通り実施できている。また、児童アンケートにおける「火事や地震がおこった時、避難することができる」の項目について、当てはまる(どちらかといえば当てはまる)と答える児童の割合が全体で90.5%(低学年97%、高学年84%)となっており達成している。
- 計画通り、月1回以上の安心安全部会と校内の安全点検を実施した。

取り組み内容③

- 児童アンケートにおける「自分にはよいところや得意なことがある」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合は低学年94%、高学年78%でおおむね達成している。
- 児童の様子を教職員で共有するために、学期に一度、児童理解研修会を行った。
- 福祉体験として、盲導犬体験、車いす体験を行った。
- 講師の先生を招き、ポジティブ教育についての理解を深める研修を行い、また、コーチング研修も2月に行った。

取り組み内容④

- 図書委員会の児童と図書館ボランティアの方で火曜日と他の曜日の昼休みに図書館開放を行っている。昼休みの図書館開放を楽しみにして利用している。金曜日の読書タイムも定着している。
- 児童アンケートにおける「本を読むのは楽しい」の項目について、「当てはまる(どちらかというと当てはまる)」と答える児童の割合は低学年87%、高学年75%であった。
- 図書委員で「読書チャレンジカード」や「読書の木(どくしょどんぐり)」などの読書に親しむ活動を計画し行った。
- 児童は、読書が好きで、図書の時間に2冊ずつ借りて読んでいる。低学年79.2%、中学年70%、高学年53.3%の児童が学年で決められた数やページ数に到達している。

取り組み内容⑤

- PTAや地域の方と触れ合う活動は、年間4回実施できた。
- 教職員がPTAや地域の活動に年1回以上参加することは、新型コロナウイルス感染症感染防止のため出来なかった。
- 児童アンケートにおける「地域の活動に参加するのが好き」の項目については、高学年84%、低学年89%で90%には達していないが、地域の活動が少ない中では、すきと答えた児童は多い。
- ボランティア清掃には、5.6年生が取り組んだ。

次回(次年度)への改善点

取り組み内容①

- 来年度も、継続して取り組む

取り組み内容②

- 来年度も、継続して取り組む

取り組み内容③

- 本年度の取り組みを継続して取り組む

取り組み内容④

- 今後も図書館開放と金曜日の読書タイムを継続して行う。
- 図書の時間にしっかりと取り組んでいるが、読書記録をつけることを忘れてしまう児童がまだ多くいるので、図書の時間の最後にクラス全体で読書記録をつける時間を設定する。高学年については、読書ページの合計の記入が十分でないので、読書時間の確保と子どもの負担軽減のため、図書室や教室に電卓を用意しておき、活用する。

取り組み内容⑤

- 来年度も継続して取り組む

(様式2)

大阪市立川辺小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 全市共通目標(小・中学校) ○小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ○小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 ○小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。 ○小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の向上に向けて、特に課題であるソフトボール投げの平均の記録を2ポイント向上させる。 学校園の年度目標 ○年度末の児童アンケートにおける「勉強がわかる」・「運動が好き」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を前年度より増加させる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5:子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 ○朝学習を工夫し、基礎的・基本的な学習の定着を図る。 ○1人1台学習者用端末等 ICT 機器を活用し、個に応じた学習を充実させるための理科・生活科のデジタル教科書を導入して、児童が意欲的に取り組むことができるようにする。	B
指標 ○月に2回朝学習を行い、ミニプリント等で「できた」「わかった」という気持ちを味わせる。 ○学力向上の研修を年2回以上行い、「授業はよくわかる」の項目で「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える児童を80%以上にする。	
取組内容②【施策5:子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点から、学習課題に対して、自分の思いや考えを言ったり書いたり伝え合う場を工夫し、授業の中で友だちと交流し考えを深める学習を実施する。	B
指標 ○児童アンケートにおける「自分の考えを言ったり書いたりすることができる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を70%以上にする。	
取組内容③【施策8:施策を実現するための仕組みの推進】 ○本年度の研究目標に基づき、国語科の授業研究を中心とした研修会を実施し、指導力向上に取り組む。 ○メンター研修を充実し、若手教員の指導力を高める。	B
指標 ○国語科における授業研究を1～6年で取り組み、全体会を年間3回以上実施する。また、全教員が	

<p>1人1回以上の授業研究に取り組み、実践に結び付ける。</p> <p>○教職員の伝達研修を年間1回以上もち研修内容を全教職員で共有し資質を高める。</p> <p>○メンター研修を年間6回以上もち、指導力向上を図る。</p>	
<p>取組内容④【施策6:国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>○低学年からの英語学習を推進して、週に2回のモジュール学習に取り組むとともに、1～2年生に年間3回以上、ネイティブ・スピーカーを活用した学習を行い、英語教育の充実を図る。</p>	B
<p>指標</p> <p>○児童アンケートにおける「英語学習が楽しい。」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を80%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑤【施策6:国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>○年間6回以上、電子黒板、デジタル教科書等 ICT を活用し、情報活用能力の育成を図る。</p> <p>○月に2回以上、タブレット端末を活用し、学習内容の理解を深める。</p> <p>○プログラミング教育を計画的に実施する。</p>	B
<p>指標</p> <p>○児童アンケートにおける「電子黒板やデジタル教科書、タブレット等を使った学習をすることが好き」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑥【施策7:健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>○児童が意欲的に体力づくりに取り組めるように、学年の発達に合わせた学習カード等を活用し、体力向上への意識を高める。</p> <p>○多様な動きをつくる運動を積極的に授業に取り入れて、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせ、意欲的に体を動かす児童を育てる。</p> <p>○体育集会での取り組み(短なわ集会、かけ足大会、ドッジボール大会)を充実させる。</p>	B
<p>指標</p> <p>○児童が各自めあてをもって運動に取り組めるように、学習カードやタブレット等を活用したりするとともに、単元によっては、振り返りの時間を持ち、次へとつなげる。</p> <p>○児童アンケートにおける「運動が好き」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を80%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑦【施策7:健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>○基本的な生活習慣(朝ごはん・早寝早起き等)の大切さについて、児童や保護者に知らせる。</p> <p>○給食の時間や栄養指導を通して、食べることに感謝して、しっかり食べる児童を育てる。</p>	
<p>指標</p> <p>○年間5回(奇数月)健康生活週間を設定して、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、「保健だより」などを通して、保護者にも意識づける。</p> <p>○朝食をとる児童の割合を80%以上にし、早寝早起きをする児童の割合は、各学年の実態に合わせて70%以上にする。</p> <p>○毎月19日に大おかずの残食調査をして、給食委員会で発表し完食の割合を増やす。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取り組み内容①</p> <p>○ 10 月から始めたプリントを使う朝学習は、各学級の実態に合わせて行うことができている。</p> <p>○ 「授業はよくわかる」の項目で「あてはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える児童は、低学年は92.1%、高学年は、81%、全体は86.5%である。</p> <p>○ コロナ禍であることから学力向上の研修を年2回行うことができなかったが、研究会国語部長を講師として招いた研修や各教科の伝達研修などを行うことができている。</p> <p>取り組み内容②</p> <p>○ 児童アンケートにおける「自分の考えを言ったり書いたりすることができる」の項目について、</p>	

「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合は、低学年 89%、高学年は 57% となり、全体では 73% となった。

- 学習のふり返りを書いたり、問いに対する答えを書いたりして、書くことはできているが、交流（考えを言う活動）に自信のない児童が多い。

取り組み内容③

- 国語科の授業研究、1人1回の公開授業については、計画通りに実施することができ、指導力向上に取り組むことができた。
- 教職員の伝達研修については、各教科・領域で、必要に応じて研修を行うことができた。
- メンター研修は年6回行うことができた。研修内容も多岐にわたり、若手の指導力向上につながる研修に取り組むことができた。
- 学力向上支援担当の先生にもご助言いただき、国語科の指導力向上に努めた。

取り組み内容④

- 児童アンケートにおける「英語学習が楽しい。」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合が、全体で 85.7% であり、80% を上回っているので、概ね達成している（低学年は 95.4%、高学年は 76%）。高学年だけで見ると、80% 以下で手立てが必要であるが、中間の時よりも数値が上がっている。毎週のモジュール学習やネイティブ・スピーカーを活用した学習の効果が出ている。また、英語部で検討した英語のアクティビティや教材の使い方を全教員に資料配布することで、英語の学習が楽しいと思えるような手立てを取れる環境づくりができた。

取り組み内容⑤

- 児童アンケートにおける「電子黒板やデジタル教科書、タブレット等を使った学習をすることが好き」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合は、低学年 97%、高学年 86% となり、全体で 91.5% となった。
- 校内の ICT 環境を整備したり、研修会等を行ったりして、全学年効果的に活用することができた。
- 伝達研修や活用研修を行ったり、ICT 支援員と協力したりしながら、ネットワーク切替えに対応した。また、スクールライフノートや Teams 等アプリを積極的に活用することで、児童がタブレット端末を使用する頻度が上がった。新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、家庭と学校を繋ぐハイブリッド型（ハイフレックス型）授業も行うことができた。
- プログラミング教材として pepper や codeyrocky を使用した。また、5年生で算数科「多角形と円をくわしく調べよう」、6年生で理科「発電と電気の利用」でプログラミング教育を計画的に行うことができた。

取り組み内容⑥

- 学習カードを活用して鉄棒運動やマット運動、なわとびなどの学習に取り組んだ。振り返りの時間をもつことで、意欲的に体力づくりに取り組むことができた。
- 児童アンケートにおける「運動が好き」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合は、低学年 93%、高学年 81% であった。
- 体育集会の取り組み（短なわ集会、かけ足大会、ドッジボール大会）が、計画は立てたが感染対策等の問題があり、短なわ集会しか実施できなかった。

取り組み内容⑦

- 年間 5 回（奇数月）の健康生活週間は予定通り実施できた。また、基本的な生活週間の大切さについてもほけんだよりや学年だより等を通して児童・保護者へ向けて啓発することができた。

- 児童アンケートにおける「毎朝、朝ごはんを食べている」の項目について、「当てはまる（どちらかというと当てはまる）」と答える児童の割合が、低学年 94%、高学年 89%であった。また、「早寝、早起きをしている」の項目について、「当てはまる（どちらかというと当てはまる）」と答える児童の割合が、低学年 67%、高学年 56%であった。
- 大おかずの残食調査は、2学期から委員会活動が行えるようになり、実施できているため、概ね達成できている。

次回(次年度)への改善点

取り組み内容①

- プリントを使う朝学習を来年度も継続していく。
- 学力向上の研修を年2回行うことができるように計画していく。

取り組み内容②

- 高学年では、発表が恥ずかしい、間違えるのが嫌だということから、割合が低かったので、少しでもチャレンジする積極的な力を育てていく必要がある。
- コロナ禍ではあるが、考えを深めることができる学習に継続して取り組んでいく。

取り組み内容③

- 次年度の研究について共通理解を図ったり、研究主題に沿った研修を行ったり、研究教科の研修を充実させる。
- 研究授業の回数も、全学年にするか3学年にするか、話し合って計画を立てる。

取り組み内容④

- 今後も計画通り英語学習を進める。学習指導案通りの活動だけでなく、別の教材やアクティビティを取り入れたり、定着度に応じて既習事項を振り返ったりするなどしていく。また、英語部で検討した英語のアクティビティや教材の使い方を実際に活用できるように研修を行っていく。

取り組み内容⑤

- ICT機器の使用頻度ではなく、活用内容に重点を置く必要がある。
- タブレット端末の活用方法を全体で共有し、児童の学習の理解をより深めていく。
- プログラミング教育では、系統性を意識し、6年間で身に付けさせたい問題解決能力等の育成を目指す。

取り組み内容⑥

- 学習カード以外にタブレット端末等の活用しながら今後取り組んでいく。
- 体育集会が、短なわ集会以外でできなかったため、次年度以降可能ならば集会をおこなっていく。

取り組み内容⑦

- 基本的な生活週間の定着のため、年間5回（奇数月）の健康生活週間は引き続き実施していく。また、ほけんだよりや学年だより等でも日常的に児童・保護者への啓発を行う。
- 早寝早起き、朝ごはんについては家庭・地域と連携して引き続き継続して指導する必要がある。
- 委員会活動による大おかずの残食調査は引き続き続けていく。次年度の状況により柔軟に対応する。